

経営比較分析表（令和元年度決算）

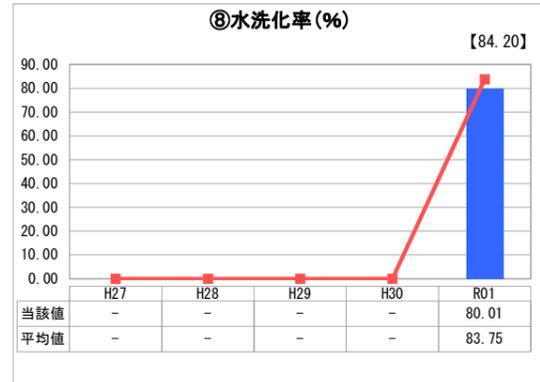
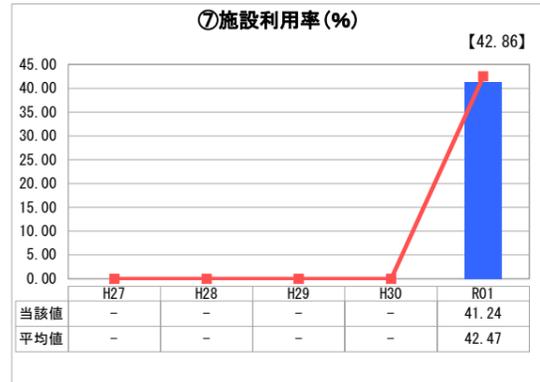
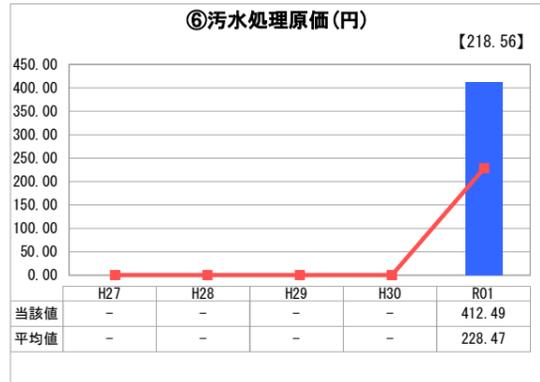
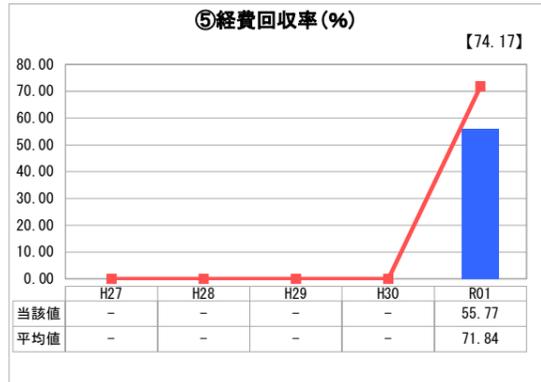
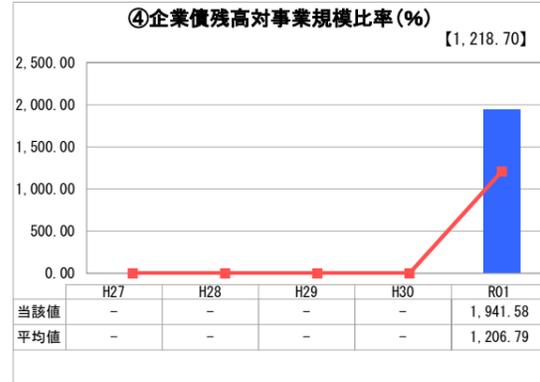
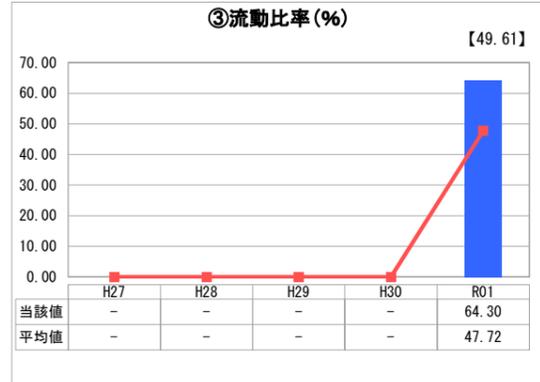
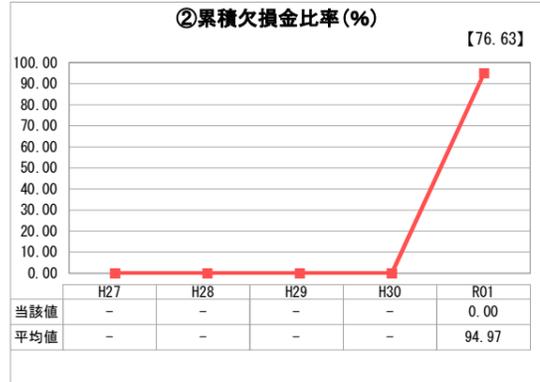
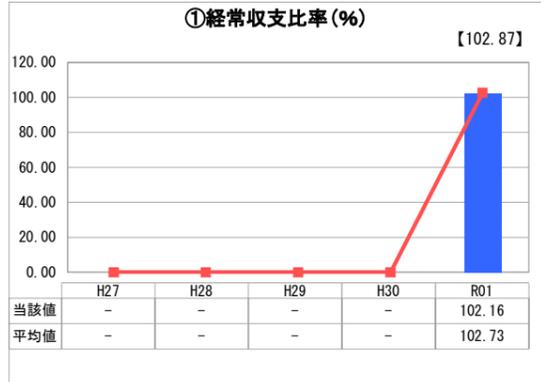
広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.20	7.02	100.00	2,992

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
51,880	778.14	66.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,616	2.93	1,234.13

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市の下水道事業は、令和元年度から公営企業会計に移行したため、各項目の数値については令和元年度からとなっている。

経常収支比率は、単年度収支が黒字であることを示す100%を上回っており健全性を保っている。一方で経費回収率は、使用料で回収すべき経費を全て使用料で賄っていない状況であり、一般会計からの繰入金に依存しているところが多い。汚水処理費の削減により今後も経営改善に努めるとともに、適正な使用料収入の確保を図る必要がある。

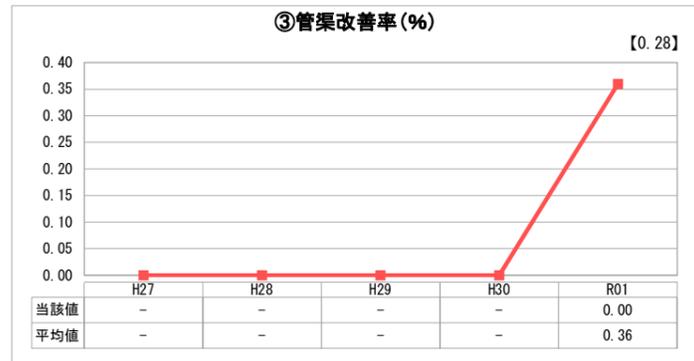
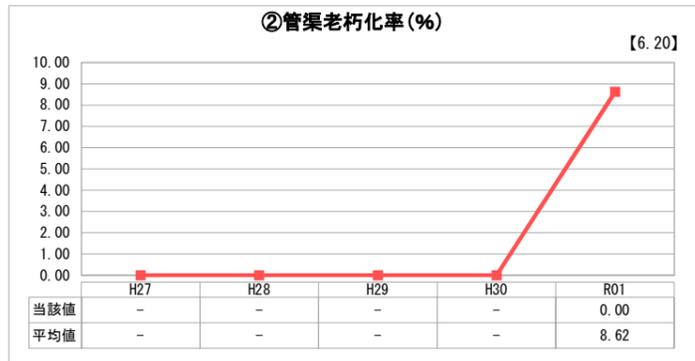
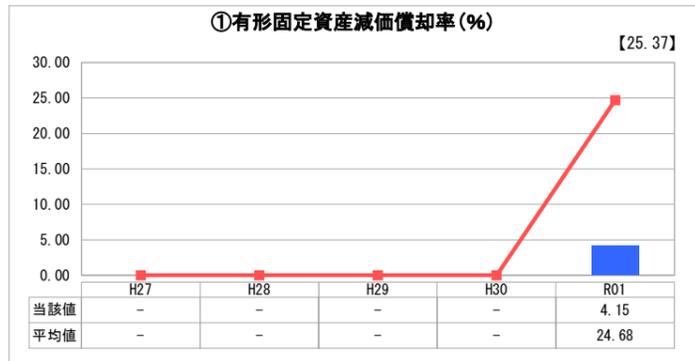
流動比率は100%未満であるが、流動負債には建設改良費等に充てられた企業債が含まれている。この財源により整備された施設について、償還の原資を使用料収入等により得ることを見込んでおり、未払いを含め支払いに問題が生じる見込みはない。

企業債残高対事業規模比率は類似団体と比べて高い状況である。また、汚水処理原価も平均値より高い理由は、現在5処理場を有しているためである。汚水処理費の削減に努めなければならないが、急激な削減は困難と考えられ、経営の健全性を維持するためには、費用に見合う適正な収益を確保する必要がある。下水道使用料見直しの検討は避けることができない。水洗化率は100%未満であり、使用料収入の増加及び水質保全の観点から、更なる水洗化率向上に努める

2. 老朽化の状況について

平成3年から下水道工事に着手し、平成6年から供用開始しているため、管渠の老朽管等の更新については、ストックマネジメント計画により、効率的かつ迅速に老朽化した施設の更新に努める。

2. 老朽化の状況



全体総括

現在5処理場を有しているため、汚水処理原価が高く、経費回収率や施設利用率が平均値に比べ低い状況にある。今後見込まれる人口減少に伴う使用料収入の減少や、老朽化した施設維持管理、その他様々な課題に対応するため「三次市汚水適正処理構想（平成21年3月策定）」を見直した。会計については、令和元年度より公営企業会計に（全部適用）移行したことにより経営状況の明確化を図り、計画的な事業展開に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。